

【初期～中期】

【中期～末期】

【透析期】



怖いのは透析だけじゃない！

初期・中期・末期まで、全身をむしばむ

慢性腎臓病の進行度別

合併症を回避する 最新対策

透析回避の第一歩は早期発見！ 数値と尿の異常から腎機能低下が 分かるセルフ診断

富田公夫 東名厚木病院名誉院長・慢性腎臓病研究所所長

腎臓病は自覚症状なく
機能低下が進行し
早期発見・治療には
健康診断が大切

慢性腎臓病（CKD）は、何
よりも早期発見が大切です。し

かし、自覚症状に乏しいため、
体調不良を感じた時にはすでに
病期が進み、深刻な状態に悪化
していることが少なくありませ
ん。腎臓が「沈黙の臓器」と呼
ばれるゆえんです。腎臓の異変
を早期発見するためにも、年に

一度は健康診断を受けるように
しましょう。
慢性腎臓病と診断されるのは、
次の①②のいずれか、または両
方が三ヵ月以上続いた場合です。
①尿検査でたんぱく1＋以上、
血尿、血液検査、画像などで

の異常所見
②糸球体ろ過量（GFR）が六
〇未満
たんぱく尿の検査は、腎臓の
ろ過機能をつかさどる糸球体の
機能を調べるために行われます。
糸球体の毛細血管に異常がある
と、本来ならば体内にとどまる
べきたんぱく質が尿中に漏れ出
てしまうのです。
たんぱく尿は、濃度によって
「―」「＋」「1＋」「2＋」「3
＋」「4＋」の六段階があります。
水分の摂取量によって多少の誤
差が生まれるものの、正常範囲
は「―」「＋」です。「＋」の